

停電時・災害時も自家発で水供給

株式会社ウェルシィ (東京・麹町)

地下水を飲料水化する水プラントのフロンティア企業「株式会社ウェルシィ」取材した。同社は、病院施設や介護施設など敷地内で井戸を掘り、地下水をくみ上げ、高度な膜ろ過処理技術で飲料水・医療用水を年間約4万t供給している。水源の2元化による事業継続性の向上や、公共水道使用量の削減に伴う料金削減で経営改善に貢献している。給水プラントは、通常は商業電源で稼働させるが、停電時は自家発電に切り替えて稼働させる。現在、大規模災害による長時間停電を想定した対策として、自家発電の積極的な利活用について検討を進めている。

高度な膜ろ過技術を駆使して、給水ライフラインを構築・維持し、公共施設や病院施設等に安定した給水サービスを提供するウェルシィ社を紹介する。

ウェルシィ社の創業は昭和60年11月。代表者は福田章一・代表取締役社長。同社の前身は現社長が昭和55年に設立した「フクダ電気工事」。インバーターを扱っていたが節水意識の高まりを受けて現在の水処理事業へと進出した。従業員数130名。資本金3億7,350万円。組織体制として、東京本社、北海道・中部・関西・九州の4支社、東北営業所、中央研究所・水質分析センターである日本エコロジー研究所の2研究施設、上海駐在員事務所を整備。地下水で飲料水をつくる「地下水膜ろ過システム」、工業用水で飲料水をつくる「SADWシステム」、河川・ため池・湖などの水で飲料水をつくるポータブルな浄水装置「セオエール」、地球環境に優しい地中熱で冷房・暖房を行うヒートポンプシステム「ウェルサーマルヒートポンプ」を販売している。

福田孝悦・取締役ソリューション事業部長は、「弊社の地下水膜ろ過システムは4つの導入メリットを

提供できます。①公共水道と弊社給水システムによる水源の2元化により、災害時の給水ライフラインを確保できること。それにより、病院や工場など事業継続性が向上できること②災害時の給水サービスで地域貢献できること③単価の安い地下水に切り替えることで上下水道料金を削減できること④地下水は夏に冷たく冬に温かいため電気・ガス使用量削減が期待できることです」と述べた。また、「災害時に使用する給水プラント用自家発電装置について、従来の40kW程度までから、今後は200kW程度まで発電出力の規模拡大を図る予定です。併せて、常時運転用として、自家発電装置の利用拡大を図る方針で検討を進めています」と述べた。

ウェルシィ社の国内販売実績は平成24年1月現在、病院・介護施設、スーパー・百貨店、ホテル、工場、スポーツクラブ向けなど多業種にわたり累計880件を超え、国内推定シェアは約60%を占めている。同社は各給水プラントに対して、24時間×365日間の遠隔監視サービスを実施し、異常を検知した場合は公共水道に切り替え、技術者が現場へ急行する措置を講じている。平成23年6月、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町と共同で「水処理プラント」を無償で設置するなど、国内外で災害支援活動にも熱心に取り組んでいる。

■連絡先：〒102-0083

東京都千代田区麹町4-8-1
麹町クリスタルシティ東館11階

TEL：03-3262-2431

<http://www.wellthy.co.jp>

